

低平地研究会

活動報告会及び特別講演資料

日 時：2021年6月2日（オンライン実施）

・ 13：30～14：20 研究活動報告会

1. 会長挨拶
2. 運営委員長報告
3. 専門、特別部会報告
 - ① 歴史・文化専門部会
 - ② 地域創生専門部会
 - ③ 環境専門部会
 - ④ 都市空間専門部会
 - ⑤ 基盤整備専門部会
 - ⑥ 低平地防災特別部会

・ 14：30～16：30 特別講演

「気候変動に地域・都市はどう適応すべきか～低平地を対象に一緒に考える～」

講師：加藤孝明 氏（東京大学 生産技術研究所 教授）

2020年度低平地研究会活動実績

月次	日 時		内 容	備 考
4月	2020年04月30日(木)	※メールによる拡大幹事会	第1回幹事会	第1回低平地研究会運営委員会の議案について
5月	2020年05月29日(金)	※書面による審議	第1回運営委員会	(1) 2019年度活動報告について (2) 2019年度決算について (3) 2020年度活動計画(案)について (4) 2020年度予算(案)について (5) 役員の交代(案)について
		※中止	活動報告会【活動報告】	平成30年度各部会活動報告 ・運営委員長報告 ・環境部会報告 ・基盤整備部会報告 ・地域創生部会報告 ・都市空間部会報告 ・歴史・文化部会報告
		※中止	活動報告会【特別講演】	
	—	—	会長懇談会	・特別講演会講師を囲んで
	—	—	成果普及	(部会活動冊子配布・特別会員、個人会員会費請求書発送準備) (会員名簿整理)
6月	2020年06月10日(水) 2020年06月11日(木)	※中止	成果普及	SAGA建設技術フェア2020(後援) (ガーデンテラス佐賀 ホテル&マリトピア)
	2020年06月24日(水)	10:00~10:40	部会連絡調整会議(第一回) (オンライン会議)	2020年度部会活動予定全般 「低平地研究」編集方針 新設「低平地防災特別部会」について ほか
	2020年06月30日(火)	—	ニューズレター発行	No. 98
7月	—	—	機関誌発行	「低平地研究 No. 29」
8月	2020年08月08日(火)	10:00~16:00	①部会活動(環境)	・佐賀低平地の下水道広報活動への協力(共催) (佐賀県下水道課主催「森川海人っフェス!」) 場所:佐賀市多布施川河畔公園 微生物観察や水質実験の体験、マンホールの缶バッジ作成等
11月 12月	2020年11月25日(水)	13:00~14:20	部会連絡調整会議(第二回) (佐賀大学)	各部会活動報告 「低平地研究 No. 30」論文テーマ・寄稿について ほか
	2020年11月30日(月) ~12月08日(火)	—	②部会活動(環境)	・低平地技術に関するASIAN協働講義プログラムの共催 場所:佐賀大学(オンライン) 参加者:佐賀大学大学院生(日本人1名、留学生:8名) インドネシア ハサヌディン大学(学部生11名) ランブマンクラット大学(学部生6名) ミャンマー 西ヤンゴン工科大学(学部生3名) バングラデシュ ジャハンギナガル大学(学部生3名)
2月	2021年02月26日(金)	11:00~12:00	部会連絡調整会議(第三回) (オンライン会議)	活動報告会準備(今年度活動報告、来年度活動計画、特別講演会 講師選定)運営委員会準備(日程調整 ほか) 新設「低平地防災特別部会」の活動方針について 「低平地研究 No. 30」編集について 新たな会員向けデジタルコンテンツについて ほか
	2021年02月27日(土)	—	ニューズレター発行	No. 99+100 合併特別号

月次	日 時		内 容	備 考
3月	2021年03月19日 (金)	14:00~15:30	③部会活動 (地域創生)	講演会「古代史の中の行橋―海石榴と草野津港―」 講師：大矢野栄次 有明海文化圏と瀬戸内海との関係について、仁徳天皇や武烈天皇、聖徳太子の歴史等を説明 [リブライオン]
	2021年03月26日 (金)	10:00~12:30	④部会活動 (基盤整備)	「佐賀低平地に軟弱地盤改良に関する事例と土の状態諸量の解釈について」講演会主催 (対面とオンラインの併用開催) [佐賀大学理工学部3号館1階大セミナー室] 共催：佐賀大学理工学部都市工学部門 ○第一部：佐賀低平地における深層混合処理工法の強度発現特性と促進養生法について 講師：大分工業高等専門学校 都市・環境工学科 助教 姫野 季之 氏 ○第二部：土の状態諸量の解釈に関する一考察 講師：佐賀大学 理工学部 教授 日野 剛徳 氏
	2021年03月31日 (水)	(公開開始)	⑤部会活動 (都市空間)	・初心者のためのオンラインGIS学習コンテンツの公開 低平地研究会Web サイト内 https://lora-saga.jp/toshi.html (1年間公開予定)

低平地研究会
Lowland Research Association

低平地研究会の目的

活動期との連携

組織と活動内容

活動内容

低平地研究会事務局

2020年度の低平地研究会の取り組み

2020年はコロナ禍による不安や混乱に始まり、それを日常として受け入れ、出来ること、すべきことなどを取捨選択してつつ努力する必要があったといえます。その状況下での当会の主な取り組みを報告します。

年度初めの幹事会や運営委員会は書面会議に変更して実施し、例年行っていました活動報告会等の集会は実施せず、後日発行した「低平地研究 No.29」の紙面での報告としました。書面会議でいただいたご意見、また、低平地研究

(No.29)で浸水被害を特集したことを踏まえ、新たに「低平地防災特別部会」を設置し(2021年1月)しました。部会長に押川英夫氏(佐賀大学理工学部准教授)、副部会長に田井明氏(九州大学大学院工学系研究科准教授)に就任いただき、取り組みを始動することとなりました。なお、当部会は発災状況に対応する必要があり、他の部会と協力して分野横断的に活動することを想定し特別部会といたしました。

今年度の広報や成果公開として、当会のリーフレットをリニューアルしました。また「低平地研究」の寄贈先を整理し、新たに有明海沿岸などの低平地に位置する公立図書館等に寄贈希望を募りました。これらにより新規の会員確保や成果公開をこれまで以上に充実させていく所存です。また、今年度開催できずにいた研究会等の集会は、今後はオンラインの活用を含め実施する予定です。ぜひご参加ください。加えて、佐賀大学では、SDGsプロジェクト研究所として「地域防災減災研究プロジェクト」(プロジェクト長:大串浩一郎教授)が新設されました。これまでの佐賀大学工学部との協力関係とあわせて、これら機関と低平地研究会が連携して取り組みがさらに進展できればと考えています。

① 歴史・文化専門部会

■2020年度活動報告

史料翻刻及び解説『大津遠太記録』
(低平地研究会歴史・文化専門部会、久留米大学比較文化研究所との共編)
「大津遠太記録」は、久留米藩御船手方(筑後川と中心とした海上輸送を取り仕切る役職)大津遠太(1831~83)の記録です。本稿では、大津が天保年間(1830~43)に久留米藩校明善堂での修学事情から、嘉永6年(1853)に「小船頭並」として出仕後、明治5年(1872)の最後の航海(蒸気船千歳丸)まで



を収録しています。本稿は、幕末の久留米藩が和船から蒸気船へ転換していく経緯、操船術伝授に関する佐賀藩との関係などを検証する上で好史料です。

■2021年度活動計画

引き続き他専門部会と連携し、有明海沿岸地域を中心とした現地調査や史料の探求・公開及び外部講演などを行う予定です。

②地域創生専門部会

■2020年度活動報告

(1) 講演会「古代史の中の行橋—海石榴市と草野津港—」

日時: 2021年3月3日(金) 14:00~15:30

場所: 行橋市リブリオ行橋(行橋市図書館等複合施設)。

高速道路の開通に伴い福原長者原官衙移籍の発掘などによって、行橋市を取り巻く古代史についての歴史環境が大きく変わり、古代から椿市地区や京都周辺が栄えていたことが再認識されつつある。ここで京都地区と行橋(難波港)の歴史文化を資源として行橋市の発展に貢献するための勉強会が開催され、講師として招かれた。有明海文化圏と瀬戸内海との関係について、仁徳天皇や武烈天皇、聖徳太子の歴史等を説明した。

以下は、講演の目次である。

- I. 行橋市(京都平野)の古代史理解の現状
- II. 古代の草野津(行橋)の経済的意味
- III. 歴代天皇・豪族の都とした跡

京都平野は、福岡県行橋市の中心部から京都郡東部・築上郡北部に広がる平野を指す。豊前平野とも呼ばれる。多くの河川が行橋(難波)に注ぐ豊かな平野である。



(2)見学会「佐賀の歴史」

コロナの影響で中止となった。

(3)マレーシア・サラワク州の開発計画と低平地問題

久留米大学とマレーシア・サラワク大学との交流協定を前提として、今後、サラワク州の河川問題や港湾設備、空港設備等の計画から山林の開発計画、環境維持などの諸問題について佐賀低平地研究会とも連携して検討会を開催するように準備を進めて来たが世界的なコロナの関係で中断している。

(4)冊子刊行

・「神武天皇と欠史八代-有明海と玄海灘の物語—」

(2020年9月刊行) 神武東征は、「宮崎県日向を出発、宇佐、岡垣、吉備、大阪難波を攻め、太陽に向かって戦う」という古代史の定説は、紀伊半島沿いの海を南に降り、熊野から奈良に出て、長髓彦と戦い、八十梟等を滅ぼしたと説明する。しかし、当時の700km以上の遠征は、兵站の問題からも、軍事的な観点からも不可能である。

九州王朝論を前提とすると、この説は次のように書き直されるのである。本当の日向は、福岡市の西日向^{ひむか}であり、本当の宇佐は、古有明海の河口一帯の北側(北野地区)である。

久留米の櫛原とは、「フシハラ」であり「フジワラ」である。そして、宇佐の宇佐津彦は、中臣氏(藤原氏)の先祖であり、今の久留米北野が拠点である。以上の議論を前提として神武東征の真実について議論している。

・「垂仁天皇・景行天皇・日本武尊から仲哀天皇・神功皇后の戦い—毛人・蝦夷の侵入とその統合の歴史—」

(2020年10月刊行) 九州王朝論を背景として、この時代に全国に広がった交易ルートの結果として、東国の蝦夷達との交流の歴史が本格化したことが説明される。この議論の背景には、「肥前風土記」からの示唆が重要である。

■2021年度活動計画

・現地(有明海と筑後川)の歴史・文化・環境についての現状調査と解説を行い、地域創生と国際化を両立させることを模索するための研究を続ける。

・有明海沿岸域の経済構造の実態と佐賀空港周辺域の将来構想の研究について続行する。

・有明海沿岸部等の低平地における社会基盤整備の現状や課題について調査・研究を行う。

・マレーシア・サラワク州クチン市の周囲の低平地に関する調査・研究を低平地研究会として検討して行く。

・有明海沿岸域の経済構造の実態と将来構想の研究について続行する。

・この地域の文化・社会・経済・政治を理解して、地域創生とこの地域の国際化の両立を模索するための研究を続ける。

③環境専門部会

■2020年度活動報告

(1)佐賀低平地の下水道広報活動への協力

日時:2020年8月8日(土)10:00~16:00

場所:佐賀市多布施川河畔公園

「森川海人っフェス!」の企画にて、佐賀県下水道課とともに下水道に関わる広報活動を実施しました。佐賀県では浄化槽から下水道への切り替えが進められており、徐々に普及率が高まってきています。また、佐賀市ではバイオマス産業都市構想に基づいて下水処理で発生する余剰汚泥の堆肥化や、季節毎に運転条件を変えて冬期に明海へ栄養塩を供給する能動的な水質管理が実施されています。このような取り組みは先進的な事例であり、有明海沿岸の下水処理場ではその試みが拡がりつつあります。そのため、適切に下水道使っていたら、またその役割を広く知っていただくことを目的として、低平地研究会としても本活動に参加しました。

展示内容はマンホールの缶バッジ、微生物観察や水質実験の体験です。訪れたのは小学生以下のご家族が多く、小さなお子様へは内容を伝えることは難しいのですが、そこを通して大人の方々には下水道の役割や機能を紹介することはできました。

2020年度は今回を含め3回の開催予定がありましたが、コロナ禍の事情により開催できませんでした。状況が落ち着きましたら活動が再開される予定なので、その折には会員の皆様にもお立ち寄りいただけますと幸いです。





(2)低平地技術に関する ASIAN 協働講義プログラム (オンライン形式) の共催

日 時：2020年11月30日(月)～12月8日(火)

場 所：佐賀大学(オンライン)

参加者：佐賀大学大学院生(日本人1名、留学生：8名)

インドネシア ハサスディン大学(学部生11名)

ランブマンクラット大学(学部生6名)

ミャンマー 西ヤンゴン工科大学(学部生3名)

バングラデシュ ジャハンギナガル大学(学部生3名)

低平地技術に関する ASIAN 協働セミナープログラムを2020年11月30日～12月8日にてオンライン形式で開催しました。インドネシア、ミャンマー、バングラデシュ、日本から合計32名の多くの学生が参加しました。

このプログラムでは、低平地に立地する東南アジアの学生、研究者らと低平地技術について講義やフィールド見学、ワークショップを通して協働して学ぼうというものです。そのため研究者や学生の招聘・派遣が必須なのでコロナ禍により往來が制限されている現状では開催が危ぶまれましたが、2020年度前半のオンライン講義などの経験が糧となり、オンライン形式で開催に至りました。講義は教員らによる事前収録したもの、またはライブを配信し、現場見学では巨勢川調整池、佐賀市下水浄化センター、有明海沿岸道路工事現場、佐賀市清掃工場などを取材して収録した動画や紹介動画の提供によって見学コンテンツを提供しました。ワークショップはポスター作成によって対応しました。Facebookのページ機能による情報総括やYouTubeによる配信を円滑に行え、改善点はありませんが参加者の反応も良く、効果的なプログラムであったと評価できました。また、入門的プログラムとしては、適当なコンテンツを配信できたと考えられます。ただし、百聞は一見に如かずとありますとおり、コンテンツ編集能力の経験不足も相まって、伝えられた内容は限られていた

はずなので、コロナ禍収束後には改めて現場見学を再開し、高度な教育へ繋げようと思っています。

今回の作成したコンテンツは本プログラムのみでの使用だけでは費用対効果が低いため、今後も講義などで活用できればと考えています。



■2021年度活動計画

コロナ禍により今年度の「世界の低平地」講演会の開催を断念せざるを得ませんでした。三島悠一郎副部会長の ASIAN 協働セミナープログラムのオンライン形式の開催経験を参考に次年度の講演会のオンライン開催等を検討しております。

世界の低平地における環境問題に関する講演会の他、佐賀低平地ならではの環境技術の情報を国内外への発信する予定です。

- 1) 世界の水問題をテーマとした講演会
- 2) 協働プログラムの開催支援
- 3) 効率的な環境学習のためのデジタルコンテンツ作成

④都市空間専門部会

■2020年度活動報告

初心者のためのオンライン GIS 学習コンテンツの公開

日 時：2021年3月31日(水) 公開

場 所：低平地研究会 Web サイト内

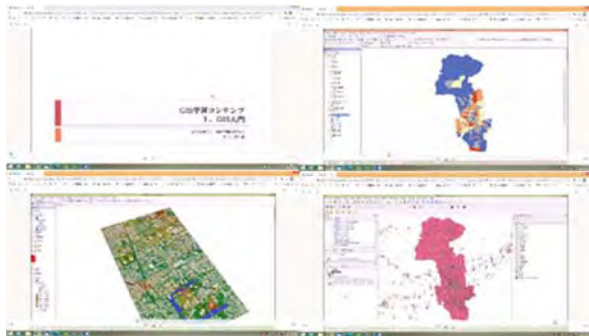
(<https://lora-saga.jp/toshi.html>)

主 催：低平地研究会都市空間専門部会

初心者向けに GIS(Geographic Information System：地理情報システム)を学習するためのオンラインコンテンツの公開を行いました。GISとは何かの紹介や、ソフトウェアの入手とインストールの方法、データの入手方法、ソフトの基本的な使い方、活用事例など、実際にGISを体験し理解を深めていただくことを目的としてコンテンツを作成しています。公開から1週間の4月7日(水)時点で、約60回コンテンツが

閲覧されており、会員の皆様のそれぞれの研究や業務でGISを活用していくためのよい機会となったものと思われます。

なお、動画は1年間公開いたします。中級編、上級編のコンテンツも随時公開していく予定です。



・予定していた一部催しは中止、次年度に備えて準備等を行った。

■2021年度活動計画

- ・環アジア国際セミナーの開催（共催）
- ・コミュニティデザインカフェの開催
- ・低平地の都市空間に関する研究成果公開、研究会や講習会等の開催
- ・GIS学習コンテンツの公開

⑤基盤整備専門部会

■2020年度活動報告

「佐賀低平地に軟弱地盤改良に関する事例と土の状態諸量の解釈について」講演会（対面とオンラインの併用開催）

日時：2021年3月26日（金）10:00～12:30

場所：佐賀大学理工学部3号館1階大セミナー室

内容：講演（対面、オンラインWebex利用）

○第一部：佐賀低平地における深層混合処理工法の強度発現特性と促進養生法について

講師：大分工業高等専門学校 都市・環境工学科
助教 姫野 季之 氏

○第二部：土の状態諸量の解釈に関する一考察

講師：佐賀大学 理工学部 教授 日野 剛徳 氏

参加者：20名

共催：佐賀大学理工学部都市工学部門

第一部では姫野季之博士より、軟弱な沖積粘土地盤の地盤改良における促進養生法について講演していただきました。固化材の違いによる差はあるものの、配合設計に必要な時間の短縮の可能性についても話題がおよびました。また第二部では日野剛徳教授より、土の状態諸量の解釈について講演していただきました。土の状態諸量の最も基本的な含水比についての考え方が示され、地盤工学に関する理解がより深められた機会となりました。



■2021年度活動計画

- ・「これからの低平地と基盤整備」に関連するテーマの講演

⑥低平地防災特別部会

■2021年度活動計画

低平地の災害リスクと防災減災に関する研究
温暖化による災害リスクの評価と適応策の検討
災害研究に関する成果発表や講演会の開催

【特別講演】

「気候変動に地域・都市はどう適応すべきか～低平地を対象に一緒に考える～」

講師：加藤孝明 氏（東京大学 生産技術研究所 教授）

《講演の概要》

確実かつ急速に進行する気候変動に対して地域・都市はどう適応すべきか、少し落ち着いて、かつ、大胆に考えたい。本講演では、そもそも自然災害と人間の暮らしはどうあるべきかを考えた上で、都市計画、まちづくりが持つ潜在力を解釈し、気候変動に向けてこれから私たちが論じるべき論点、取り組むべき課題を提示し、その方向性について議論する。

加藤孝明先生 略歴

東京大学工学部都市工学科卒業

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻修士課程修了

東京大学生産技術研究所准教授を経て2019年4月より現職

専門分野は、都市計画、まちづくり、地域安全システム学



都市災害シミュレーション技術をはじめとする防災性評価技術、それを社会に結びつける「まちづくり支援技術」の開発を行う一方で、市民協働の防災まちづくりに実践的に取り組んでいる。地震防災、および、気候変動への適応としての水害リスクを軽減する都市づくりのあり方についての研究を進める他、次の災害後に備えた事前復興、復興準備についても研究を進める。全国各地で地域づくりの先駆的なモデルの構築を試みる。

最近では、社会資本整備審議会「気候変動を踏まえた水災害対策検討小委員会」、国土交通省「水災害対策とまちづくりの連携のあり方」検討会他、気候変動と防災に関わる委員会に参画する。環境省関係では、環境大臣と防災担当大臣が主催した「気候変動×防災」に係る意見交換会（2020.2）に有識者として参加、また気候変動適応関東広域協議会のアドバイザー、同分科会の座長を務める等、都市計画、および、防災に関して積極的に社会に対して発言を行う。

日本建築学会奨励賞（2001年）、地域安全学会論文賞（2007年）、都市計画協会楠本洋二賞（2009年）

地区防災計画学会論文賞（2015年）、都市住宅学会論説賞（2015年）。

また、関与するまちづくり団体は、第18回防災まちづくり大賞・総務大臣賞（葛飾新小岩北地区2013年）、レジリエンスアワード2018 グランプリ（伊豆市土肥地区）、国土交通省先進街づくりシティコンペ（徳島県美波町伊座利集落2018年）等を受賞。

< 特別講演メモ >

